

銀行名	みちのく銀行
タイトル	廃校を活用した人工光型植物工場稼働に対する支援について
取組み内容	<p><b>【動機】</b>  平成25年12月、有限会社安部製作所は精密機器製造業から人工光植物工場へ業態転換し主に葉物を生産。青森県内初の人工光型植物工場(第1工場)が稼働開始。  同社商品が予想以上に反響があり。第1工場の生産量のみでは足りず、増産に向けた設備投資を検討。</p> <p><b>【取組み内容】</b>  県内初の人工光型植物工場ということで、関係事業者の関心は非常に高く、早い段階で産官学の連携が整った。  (産) 地元スーパー、植物工場メーカー...販路拡大、売れ筋品目の提案  (学) 青森県産業技術センター他 ...技術指導、先進地試作  (官) 青森県、五戸町 ...廃校無償貸与、販路支援  当行では、当該事業の収支計画の策定を中心に協調金融機関である青い森信用金庫との金融調整も対応。  結果、廃校を活用した人工光型植物工場の稼働に至った。</p> <p><b>【効果】</b>  学校は立地条件や構造的価値からも地域の拠点的な施設であり、その有効活用が求められている。当該案件を契機に、当行では本事例の他に2つの廃校利活用ビジネスに対し融資実行している。廃校利活用の機運を高める効果があった。  人工光型植物工場での作業は比較的簡易な者も多く、高齢者や障がい者の方の雇用増加が期待できる。  天候に左右されず、また価格変動なく通年出荷できることから、事業者が安定した収益を確保できることと、消費者の食の選択肢が増加した。</p>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	津軽地域馬肉振興協議会に対する支援について
取組み内容	<p><b>【動機】</b>  津軽地域の畜産物（主に豚と馬）を処理する屠畜場は公共機関が運営していた。しかし、当該屠畜場の老朽化が著しいため、公共機関では改修も含め民間事業者A社へ運営を譲渡することを決定。  A社は屠畜場の譲受後、自社の豚専用屠畜場にすることを決定しており、馬の処理をする屠畜場が地域から消滅することとなった。  県内でNo.1の生産量を誇る津軽地域の生産者は、自分たちで馬専用の屠畜場を建設することが必要となった。</p> <p><b>【取組み内容】</b>  従来、屠畜場は公共で運営されることが一般的であり、地元生産者のみで建設することは資金面での負担が大きかった。  津軽地域で最大の生産者である（有）小田桐産業に対し、当行では6次産業化ファンドや各種補助金を併用した資金調達を提案した。  青森県を初めとする自治体も馬産地維持に向け協力体制が整い、産官金が連携し馬専用屠畜場建設プロジェクトが開始された。  当行では収支計画の作成支援や関係機関との調整を実施。  結果、事業費5億3,000万円に対し、「畜産クラスター事業」の補助金と金融調達を併用し、馬専用HACCP対応の屠畜場建設に至った。</p> <p><b>【効果】</b>  年間生産量511トと全国第3位（平成26年）を誇る青森県の馬肉。うち半分以上が津軽地方で生産されている。  馬専用屠畜場が完成したことにより、津軽地域の馬肉生産拡大が期待できる。  当該屠畜場の稼働により馬肉の生産場、及び加工場双方で雇用機会の拡大が期待できる。  当該施設は馬専用屠畜場としては全国でも珍しいHACCP対応となっていることから、食の安心・安全が一層担保され、当社の強みとなっている。</p>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	台湾初輸出へのサポート
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b>      当行取引先A社（にんにく生産・加工業）は黒にんにくを製造しており、その品質の高さ及び近年の健康ブームを受け、日本国内にとどまらず海外から引き合いが増えており、平成28年3月に台湾企業から引き合いがあった。      これまで海外企業と直接商談した経験が無いものの、将来的には海外販路先を開拓する必要性を感じていたA社に対し、この引き合いを実りある商談に繋げるべく、当行より各種サポートを行うこととした。</p> <p><b>【取組み内容】</b>      当行より海外企業との商談で注意すべきポイントを説明の上、台湾における日本食品の流通事情（特に青森県産品）に関して情報提供を行った。      当行より台湾への食品輸出に必要とされる産地証明書発行を管轄する自治体に各種サポートを依頼した。      自治体が業務委託する台湾現地のビジネスコーディネーターを活用し、台湾企業の信用調査を実施し、その結果に関して情報提供を行った。</p> <p><b>【取組み後の成果】</b>      A社は上記サポートをもとに台湾企業との商談に臨んだ結果、A社に有利な販売条件で商談が成立した。後日、台湾企業から発注されたのは、A社における国内の大口販売先からの1ヶ月分の注文量に相当するものであった。台湾企業からの支払代金は後日、当行コルレス先を通じて海外送金により決済された。      今後の展開として、台湾企業を含め海外から引き合いがある可能性もあることから、輸出手続への負担を重く感じているA社に対し、事務面でのビジネスチャンスを見逃すことにならないよう、当行より輸出手続を代行してくれる商社等を紹介する他、必要に応じて資金調達面でA社をサポートしていく。</p>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	抜本スキーム構築及び経営者保証ガイドライン一体整理事例（協議会利用）
取組み内容	<p>事業再生事例（県内水産物大卸業者）</p> <p>サマリー</p> <p>県内中核都市の水産物大卸業者 放漫経営に加えて卸業者の脱卸等、構造的問題を抱え収益弁済可能以上の債務を抱えるに至る 地元大卸業としての事業性及び公共的使命、雇用等から平成 25 年より事業再生に取組み、平成 25 年 11 月青森県中小事業者再生協議会（以下再生協）を利用して暫定計画を策定。 改善施策であるグループ再編、量販店への営業活動、不採算取引からの撤退等が成果を挙げ、計画を上回る実績を残した。 暫定計画が順調な推移であることを受けて平成 27 年抜本的再生計画に着手。 抜本策では収益が回復しても尚、過剰となっている債務のカット及び劣後化を柱とした金融支援を盛り込み、大卸としての機能の他、暫定計画において順調に推移した量販店販売及び選択と集中を、更に推し進める内容となっている。 本件については平成 27 年 11 月に取引金融機関全行合意し、金融支援は平成 28 年 2 月に実行した。</p> <p>《詳細》</p> <p>窮境原因</p> <p>【構造的問題】</p> <p>産地市場ではない 小売量販店の中抜き（卸売離れ） 人口減少と高齢化による需要減 海外水産物の確保が難しくなっている</p> <p>【放漫経営とグループ企業】</p> <p>同業種傘下として便利に使われ資金流出も発生 グループ会社に仲買も多く資金援助も多額 経営者の管理が不十分で趣味に投資も行った</p> <p>自力再生理由</p> <p>【公共的使命】</p> <p>産地市場ではないが地方卸売市場として市民の台所を担っている 従業員は 64 名であるが仲買業者及び家族を含めると数百人の従業員に影響する 年商は 64 億円を数え地元企業として影響力大きい</p> <p>【相応の収益力を回復】</p> <p>平成 25 年に策定した暫定計画はグループ再編を含む厳しい内容であった 金融団、再生協及び外部コンサルの強い指導の下、計画を上回る実績をあげた スポンサースキームも検討したが産地市場でない事もあり探索が困難と判断</p>

収益力も一定の回復を見たことから事業価値相応にあると判断し(事業性評価)自力抜本再生を選択

【再生の具体的内容】

直接債権放棄及び DDS (劣後ローン) を伴う抜本的事業再生

直接放棄額は金融機関合計で 479M、DDS は 200M の合計 679M

うち当行は放棄 214M と DDS93M の合計 307M の金融支援

私的整理ガイドラインに則し計画期間 10 年

経営者保証ガイドラインも適用し一体型整理を適用

社長及び役員の交代

プロダクトアウト型営業スタイルからマーケットイン型の営業スタイル  
確立

高付加価値商品を開発し他地域へ売り込んでいく

戦略的営業でスケールメリットを追求し長期的には営業マンの増員を図る

当行支援方針

当社は地区において流通の要を担う企業であり雇用も含め経済貢献度が大きい

暫定計画の進捗状況が良好で自力再生可能と判断

他行調整において金融支援の衡平性があり経済合理性に問題ない

何よりも地域金融機関において地元企業を支えて事業再生を行う主旨に合致している

銀行名	みちのく銀行
タイトル	当行ハンズオン事例
取組み内容	<p>経営改善事例（地元自動車ディーラー）</p> <p>サマリー</p> <p>創業 70 年を数える老舗自動車販売社  長年ヒット車に恵まれず赤字が累積し資産売却で資金繰りを凌ぎ、設備投資も行われてこなかった  先代が若くして亡くなり、現代表者は若くして後継となった事で経験が浅くガバナンスが脆弱で人事も硬直化  平成 24 年に当行関与の下で事業改善計画を策定し、顧客管理の徹底と継続的な採算管理を柱に据えた経営改善計画書を策定。  時を同じく平成 24 年に発売した新型車が大ヒットし売上が上昇に転じ追い風が吹いてくるが資金繰りは厳しい状況が続いていた  当行以外の金融機関は長年の業績低迷から回収方針を明確にしておりキャッシュフローを上回る返済を求めている  平成 26 年、他行調整を目的に当行は再生協議会の利用を提案し、平成 24 年策定の計画をブラッシュアップする事と金融調整を依頼した  平成 26 年 8 月、『顧客管理の徹底 基盤収益の強化 サービス部門の収益率アップ 顧客満足度向上』以上を骨子とした再生計画に同意  全金融機関が計画キャッシュフローに則したプロラタ返済として資金繰りを安定させ、設備投資も每期実施する計画  <u>同時に当行より 1 名出向しガバナンスの強化を図りターンオーバーを強化</u>  以上の施策実行が新型車のヒット効果を最大限発揮させ、売上及び収益ともに計画以上の実績となり、平成 27 年 12 期決算では追加弁済も実施  収益性改善によりプロラタ返済を解消すべく他行肩代わりを含むファイナンスを実施し再生協議会のモニタリングを卒業  再生協議会におけるモニタリング期間内の卒業は、青森県で 2 件目となる成功事例である</p> <p>成功のポイント</p> <p>本件は外部コンサルタントを利用せず全てハンズオンで事業及び財務デューデリを実施し当社の強みと弱みを正確に把握（<u>事業性評価</u>）  最初のキックオフからイグジットまで 3 年を要したが経営者と信頼関係が深化した  当初、他行の金融調整が難航し困難を極めたことで再生協議会の利用を促したことが結果的に有効であった  当行出向者が総務部長としてガバナンス構築と経理体制の指導が非常に有効であった  <u>KPI 管理をしっかりと行った事でヒット車による増収効果を最大限に活かせた</u></p> <p>本件から学ぶ経営改善支援（まとめ）</p> <p>当初は経営者との信頼関係が薄く、また経営者自身も自信を失っており会社の存続も危ぶまれる状況であった。ここ 10 年間は創出キャッシュフロー以上の返</p>

済を金融機関から求められており、経営者一族の法人・個人の資産売却で凌いでいる状況でいた。

当行は永年の取引及び経営改善支援を強化すべく再生債権として本部管理とし、抜本的な再生に着手し足掛3年で収益性及び資金繰りを改善し無事卒業させるに至るが、途中、従業員の不正発覚など困難を極める場面もあり、それを当行行員の出向で乗り切るなど、本支店及び当社一体となり成功させた事例である。

事業性評価を通じた計画策定を素早く行い、実行支援は信頼関係を構築しながら多少時間を掛けて行う事が、改善支援により有効であることを示している。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会の開催
取組み内容	<p><b>【動機】</b>  将来を担う子どもたちに、普段訪れる機会の少ない銀行を実際に見学していただき、社会のなかで銀行が果たす役割やお金の大切さ・正しい使い方などを理解してもらうために実施した。</p> <p><b>【取組み内容】</b>  小学生を対象とし、以下のカリキュラムで銀行業務の説明や銀行内の見学などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 銀行業務の説明</li> <li>- 紙幣の鑑定や札勘の体験</li> <li>- 銀行内の見学（地区センター・貸金庫室・役員室）</li> <li>- クイズ大会（早押し機使用）</li> <li>- 名刺交換（オリジナル名刺の作成）</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b>  平成22年度より青森市の本店で開始。平成26年度からは弘前市においても実施しており、これまで累計で17回開催、延べ382名の生徒が参加。保護者からも好評で、地域のイベントとして定着している。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催
取組み内容	<p><b>【動機】</b>          社会にでる前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」を考えてもらうきっかけとするために実施した。</p> <p><b>【取組みの内容】</b>          高校生に楽しみながら金融経済を学んでもらうためのクイズ大会における運営全般を担った。</p> <p><b>【取組みの効果】</b>          平成25年度から累計3回開催し、延べ34校99チーム198名が参加。高校生だけでなく、学校関係者などへも広く認知されてきている。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	スポーツ競技（カーリング）を通じた地域貢献活動
取組み内容	<p><b>【動機】</b>  「カーリングの街」を標榜する青森市に本店を構え、「子どもの未来を応援する」地域金融機関として、カーリングを通じた地域貢献活動を継続しており、その一環として、青森県カーリング協会が主催し、当行が特別協賛する、みちのく銀行CUP「第4回U-18カーリング選手権大会」を開催した。</p> <p><b>【取組みの内容・効果】</b>  大会への特別協賛などを通じて、将来、青森県出身で日本を代表するような選手の育成・強化に繋がり、カーリング競技の振興を通じた地域の活性化に貢献している。</p> <p>また、大会会場は、当行が青森市と青森市スポーツ会館のネーミングライツ・スポンサー契約をし、スポーツ競技を通じて、『将来を担う子どもたちの夢が叶い青森から世界に羽ばたいてほしい』との思いをこめ、「みちぎんドリームスタジアム」と愛称を決めた施設でもあり、ネーミングライツ使用料で当施設内にあるカーリング場の利用期間が2ヶ月間延長されるなど、競技環境の改善にも貢献している。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	環境再生への取組みを通じた地域貢献活動
取組み内容	<p><b>【動機】</b>  青森県が計画している青森・岩手県境不法投棄跡地の環境再生活動に賛同し、「企業による環境再生の森づくり活動」へ参画した。</p> <p><b>【取組みの内容・効果】</b>  平成26・27年の2年間で、当行役職員およびその家族が約240名参加。ブナやクリなどの広葉樹の苗木3,000本を植樹した。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	あしなが育英会への寄付を通じた地域貢献活動
取組み内容	<p><b>【動機】</b> 東日本大震災により遺児となった子供たちへの支援を通じた地域貢献に継続的に取り組む。</p> <p><b>【取組みの内容・効果】</b> 平成23年から「東日本大震災・遺児支援『スマイル応援定期預金』」を販売。本商品は、初回満期日まで、毎年3月末の定期預金残高の0.01%相当額を、当行が遺児の支援資金として、「あしなが育英会」に継続的に寄付するもので、本商品発売以外にも「当行が主催する各種イベントにおける募金の呼びかけ」などを通じた募金活動を継続的に展開しており、この取組みに関する募金についても合わせて贈呈している。 寄付金総額は、平成23年から合計5回/21,371,287円となっている。</p> 